

取扱高が連続60億円超 畑作苦戦も生乳伸び J A 忠類

2019年5月5日

J A 忠類（蛭原一治組合長、正組合員121人）は4月25日、第71回通常総会を忠類コミュニティセンターで開いた。2018年度の生乳生産量は、ここ数年の投資効果などで、計画を6.4%上回る5万8826トンとなり、農畜産物の取扱高は、2年連続で60億円の大台を超える63億9900万円（前年度比5.7%増）だったことなどが報告された。

委任状、書面を含めて97人が出席した。総会で蛭原組合長が「地域から信頼されて選ばれ続けるJ Aを目指していきたい」とあいさつした。

十勝総合振興局農務課の石丸喬浩主幹、飯田晴義町長、J A北海道信連帯広支所の吉原裕貴支所長が祝辞を

述べた。

18年度は低温や日照不足の影響から、小麦やジャガイモが減収、食用コリ根も計画比63%の生産実績だった。また、ビートと大豆、小豆は計画を上回る実績を残した。

取扱高150億円超 野菜高値で過去2番目 J A 帯広大正

2019年5月15日

J A 帯広大正（吉田伸行組合長）は15日、帯広市内の大正農業者トレーニングセンターで通常総会を開いた。2018年度の取扱高は前年度比2.8%減の150億6700万円で、前年度に次ぐ過去2番目の水準だったことを報告した。

天候不順により多くの作物で収量が落ちたが、高値で推移した野菜が支えた。

吉田組合長は「作物の品質や収量が落ちたことは残念だが、被害は最小限で食い止めることができた。食料基地の農業者としての自覚の表れであり、生産意欲が減じないようJ Aの運営に取り組みたい」とあいさつした。

18年度の品目別取扱高は、平年の収量を下回ったジャガイモが6.5%減の38億2000万円、ダイコン、ナガイモなどの野菜は21.3%増の36億7700万円。平年並みか前年

以下の収量だったが全道的な不作もあり価格が上昇した。ビートは3.5%減の15億600万円で、収量、糖度とも平年を上回った。

経常利益は4.2%増の4億4900万円、当期剰余金は6.6%増の3億800万円だった。

19年度の事業計画では、国からの交付金を除いた取扱高を111億2400万円と見込んだ（18年度実績は122億7600万円）。

18年度販売高132億円に 史上2位 J A さらべつ

2019年5月23日

J A さらべつ（若園則明組合長、正組合員298人）の通常総会が20日、同J Aで開かれた。2018年度の農畜産物販売高は前年度比8億100万円減の132億5100万円で、史上最高だった前年度に次ぐ2番目となった。

農産物は8.5%減の94億500万円、畜産物は1.7%増の38億4500万円。作物別ではジャガイモ26億7800万円、ビート25億2600万円、小麦14億7100万円、豆類22億1600万円、生乳26億2500万円など。経常利益は3億7775万円。当期末処分剰余金3億8439万円。

総会には委任状を含め235人が出席。若園組合長は「6、7月の低温長雨で生育や収穫への影響などもあつ

たが、史上2番目の実績となった。公認会計士の導入、内部監査や貸し付け審査体制の強化を図り、信用事業の譲渡は行わず地域の金融機関として責任を果たしたい」とあいさつした。

今年度の事業計画では「農業諸政策等に対する要望・要請活動」など8点の重点目標を定めた。